

■第4回板橋区緑の基本計画改定委員会での指摘事項とその回答

		委員からの指摘事項	板橋区の回答
施策体系案について	資料 2	◆ 将来像の「“ひと”と“みどり”の共生でウェルビーイングが叶うまち いたばし」の、「共生」を「関わり」にしてはどうか。また、将来像実現のためのテーマの「持続可能な未来を“ひと”と“みどり”でつなぐ」の「つなぐ」を「つくる」にしてはどうか。	将来像の「共生」につきましては、本計画の上位計画である板橋区基本構想で用いられてることから、本計画においても「共生」を用いることとして、将来像を「“ひと”と“みどり”の共生でウェルビーイングが叶うまち いたばし」としております。将来像実現のためのテーマについては、指摘に基づいて「つなぐ」を「つくる」に修正いたしました。
		◆ 区の現況を受けて、課題を整理し、目標達成に向かって施策を進めるという過程が見える資料にする必要がある。	社会状況の変化、ならびに現計画策定以降の取組実績などを踏まえた区の現況に基づいて課題を整理し、将来像の実現、目標値の達成に向けて 3 つの基本方針、11 の実施方針に基づいて施策を展開していくことを示しました。
		◆ 各施策間のつながりが見えない。	第 1 期実施計画で施策間のつながりがわかるよう、表記を工夫します。
	資料 4	◆ 目標ごとに具体的な事業内容が記載される資料 4 において、各目標につながる 3 つの目標である「グリーンインフラの推進による緑の機能の活用」、「DX によるみどりの機能の発揮」、「多様な主体が担い手となった連携・協働による取組推進」と各目標との関わりがわかるまとめ方にしてもらいたい。	「グリーンインフラの推進によるみどりの機能の活用」、「多様な主体が担い手となった連携・協働による取組推進」「DX によるみどりの機能の発揮」はすべての施策に関わるものと考えており、それぞれの取組の考え方を第 4 章 4 施策展開の共通視点（P65～P67）で示しました。
施策体系に関する事業について	資料 4	◆ 区民が理解しにくい EBPM は、「根拠に基づく政策立案」と記載した方が良い。	EBPM の後に「根拠に基づく政策立案：E B P M」に修正いたしました。
		◆ 施策 01「税制改正などの国・都への要請」の事業は、区がこれから国や都などの自治体と土地取得に向けた動きをしていくという認識でよいか。	引き続き、機会を捉えて、土地の買取について検討するとともに、公有地化に際して、他自治体と連携し、十分な補助金制度の確立や樹林地の所有者に対する固定資産税や都市計画税などの負担軽減等について、要望していきます。
		◆ 公有地化をめざす樹林地の場所のイメージがあれば教えてもらいたい。	令和 7 年度には板橋区立大門東の森が区の所有となる予定です。
		◆ 今後、日光市以外と森林整備等の協定を結ぶ可能性はあるか。	現時点では、新たな自治体と協定を結ぶ予定はありません。
		◆ コーディネート組織は重要であるにもかかわらず、資料の掲載量に不足を感じる。	協働の今後の取組については、事業化のうえ区の方向性について検討していく予定です。 資料掲載については、他の自治体の取組などのコラム掲載を含め、掲載方法を検討いたします。
		◆ 板橋駅西口駅前広場再整備において、都市部では移植樹木が根付きにくいことを踏まえ、樹木が生育する地盤の環境を整えて、樹木を移植する検討がされているのか。	植物が根付くことは容易ではないものの、移植に耐えうる樹種を選定して植えることを考えています。
		◆ 施策 10「エコロジカルネットワークの形成」の事業の一つである、「外来生物への対応」の評価指標を苦情件数の減少から、対応した外来生物の数に代えてはどうか。施策 20「安心・安全なまちへ向けたみどりの活用」の事業の一つである「街路樹の維持管理における SNS 通報システムの運用」の評価指標を、通報件数の減少から通報件数の増加に代えてはどうか。なぜこの評価指標になったのか教えてもらいたい。	件数が減少したことは、事業により影響を及ぼす外来生物や危険な街路樹が減少したという効果を意味していると捉えておりますが、この評価指標につきましては、今後関係部署の調整いたします。

	委員からの指摘事項	板橋区の回答
全 般	◆ 「まちなかに広げるみどりの創出」のサブタイトルに用いている、官民連携のイメージを教えてください。	緑化指導や界わい緑化を通して民間でも緑を創出するほか、金銭的な助成に加え、専門知識を持った人の派遣や、共にみどりを育てる仕組みを含めた事業などをしています。また、公有地におけるみどりの維持管理について、公民連携により実施することを想定しております。
	◆ 官民連携を考える際には、行政と区民だけでなく、企業や NPO も含めてもらいたい。また、官民連携の表現が、固いイメージとなってしまうので「区民や企業との～」にしてはどうか。	区民だけでなく企業や NPO も含まれるため、表記を見直します。また、板橋区の他部署の行政計画と整合性をとり、表現について検討いたします。
	◆ 日本大学医学部附属板橋病院の前の道路沿いに植えられていたサクラをすべて伐採した理由を教えてください。	本路線につきましては、日本大学医学部附属板橋病院への緊急輸送経路となっており、電線共同溝（無電柱化）工事の対象路線となっています。そのため、今後の大規模な改修工事を見据え、工事の支障となるサクラの木の伐採を実施いたしました。 工事完了後の植栽につきましては、本路線は幅員も狭いことから、新たに街路樹を植えることは行わない方針です。また、工事に先立って住民説明会を実施しており、地元住民も幅員が狭く通行しづらい状況を危惧していたため、整備後も植栽を行わないでほしいと地元住民から要望を受けています。
	◆ 板橋崖線軸地区には高さ 20m を超す高木が放置されている現状で、周辺に被害をもたらす可能性のある樹木をこれからどのように管理していくのか。	街路樹に加え、今後は公園などの樹木も、樹木医による樹木診断を行った上で、倒木のおそれがある危険な樹木を伐採することを考えています。また、300 m以上の樹林地を有する公園・緑地については、樹林地管理計画を策定し、適正な維持管理計画を検討していきます
意見 シート	◆ 事業評価について、従前の C 評価の案件こそ今後注力していかなければ緑の基本的な存立自体が危うくなることを内在している。評価ランクのどれかに、現在結果が伴っていないでも「実現に向けて努力しなければならない事項」のコメント欄が欲しい。	事業評価の段階評価と別に「実現に向けての取組等の事項」を記載するか学識経験者の意見を踏まえ検討いたします。
	◆ 板橋の名所、名物を作って行く、どちらが今後の見通しつか。 例えばアジサイにしても単一で坂や崖のような地形でも面積広くあるいは長い距離にわたって一面に栽培、あるいはもみじの木単一にて長い距離、広い面積を覆えたらその在る地形と相まって特色ある場所が出現し、時間経過とともにかけがえのない場所を提供でき人はやがて～の名所と呼ぶようになる。区独自で名所を仕立てるようにすれば後の世代に【住みたくなる街】として選ばれよう。そのような計画を持った 2 0 3 5 計画であつたら行政担当者も遣り甲斐が出るのでは。	第 3 章のテーマⅡ “みどり”で街並みをつなぐ <まち> の課題（P37）に対し、必要となる対応として、「まちの魅力を更に向上させるために公民が一体となったみどりのまちづくりの推進体制を構築し、地域の特色を反映した民有緑化を進めていく必要があります。」としているとおり、地域の愛着を育む、みどりの創出に取り組んでいく予定です。